

保護者の皆様

豊能町立吉川小学校

校長 松田 寿春

学校教育自己診断の結果報告について

1. はじめに

早春の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

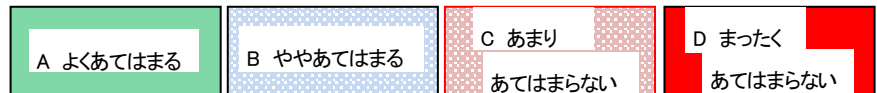
さて、本年度12月に実施いたしました「令和3年度学校教育自己診断（保護者用）」の集計結果と本校としての分析結果をお知らせいたします。

筆記回答につきましては、いただいた全てのご意見は貴重な提言として受け止めさせていただき、本分析結果には記載しないことをご了解くださいますようお願いいたします。

本アンケートにつきましては、同時に行った児童用・教職員用のアンケート結果も合わせてその結果を分析し、学校協議会に報告し、委員各位のご意見ご提言をいただきました。

なお、グラフが項目によっては無回答分がグラフに反映されず、合計が100%にならない項目もあります。

2. 結果報告



(1) 学校経営に関すること

1	学校教育方針や活動内容を理解している。	R1	48	45	5	0
		R2	48	45	7	0
		R3	36	61	3	0
2	学校は、保護者・地域の願いに応えている。	R1	40	53	7	0
		R2	53	40	5	0
		R3	39	54	7	0
3	学校は雰囲気がよく、子どもたちは生き生きしている。	R1	62	34	4	0
		R2	69	31	0	0
		R3	67	33	0	0
4	子どもは、学校や学級は楽しいと言っている。	R1	53	38	9	0
		R2	70	23	5	0
		R3	70	28	2	0

No.1 『学校教育方針や活動内容を理解している』

ここ3年間、肯定的評価(A+B)が90%以上の評価をいただき、保護者の方が学校教育方針や教育活動を肯定的に評価をしてくださっていることがうかがえます。本校の重点教育目標は、「よしかわの教育の推進」です。これ

まで本校が大切にしてきた「よしかわの教育」をどう進めていくべきか、教職員は協議し、保護者・地域の皆様のご意見も聞かせていただきながら、本校の子どもたちの実態と課題に正対した教育活動を進めております。

この数年の重点教育目標を、学校再編を見据え「とよの教育の推進」としてきました。「とよの」について学ぶことも大切にしながらも、もう一度、吉川学の原点を見直したいと考えました。これは、「よしかわ」という狭い枠にとどまった、排他的な教育を推進しようとするものではありません。吉川の地域や吉川の財・人材を生かした「よしかわならではの教育」を、学校再編までの5年間、見つめなおして大切に進めていきたいと考えています。「吉小っていいな。」「吉小すきだな。」と、子どもたちにも保護者・地域の方にも思っていたいただける学校運営に努めて参りたいと思います。

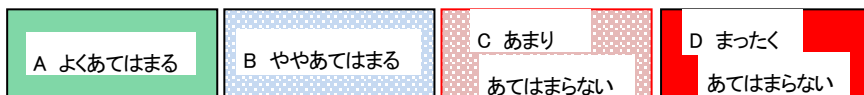
No.2『学校は、保護者・地域の願いに応えている』

ここ2年間、肯定的評価(A+B)が90%以上の評価をいただきました。ただ、「よくあてはまる(A)」が減少している点は、受け止めなくてはならないと思っています。何について、そう思われているのか、機会を見つけてお聞きしていきたいと思っています。また、コロナ感染症対応として、保護者・地域の皆様に来校自粛を含める、いくつかの制限をお願いすることとなり、その点でも、地域に開いていない、地域の願いに応えることが減っていると感じられたのではないかと推察いたします。コロナ感染症対策を行いながらも、できるだけのことをして教育活動をすすめてきたつもりではありますが、保護者・地域の願いに応えることが減っていると感じられたことは受け止めて、教育活動を進めていきたいと思っています。

No.3『学校は雰囲気がよく、子どもたちは生き生きしている。』No.4『子どもは、学校や学級は楽しいと言っている。』

ここ3年間、肯定的評価(A+B)が、96%以上の評価をいただきました。学校の雰囲気がよく子ども達が生き生きとしていることや、子ども達が楽しく学校生活を過ごせることは、教育活動の最大の目標といえます。今後も子どもたちの思いや願いに耳を傾け、子どもにとって楽しい学校とは何かを求め、子どもたちが学校が楽しいと思える学校運営と教育活動に努めていきたいと思っています。

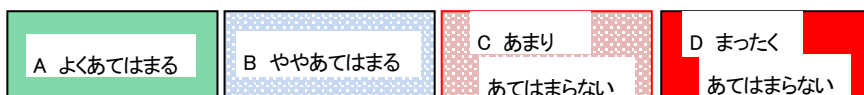
(2)学習に関すること



5	子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。	R1	43	53	4
		R2	46	46	5
		R3	57	41	0

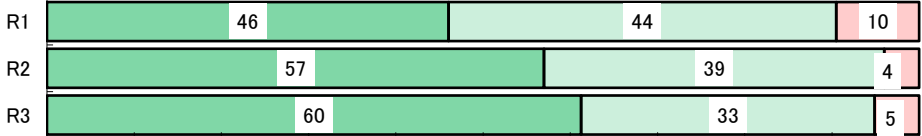

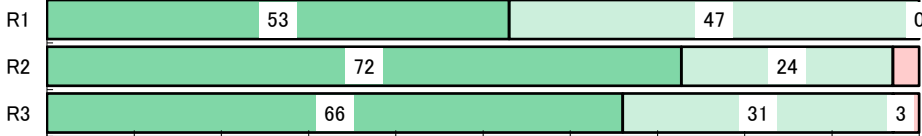
No.5『子どもは、授業がわかりやすいと言っている。』

ここ3年間、肯定的評価(A+B)が90%の以上の評価をいただきました。今後も授業研究を重ねて、子ども達の学びについて、子どもたちの考えや考えるきっかけを大切にし、子どもたちが共に学び合いつながらる授業、子どもたちが楽しくわかる授業づくりに努めていきたいと思っています。



(3)学校生活について

6	子どもは、学校に友だちがいると言っている。	R1	66	30	4
		R2	73	23	2
		R3	82	18	

7	<p>学校は、いじめや暴力・体罰のない学校づくりに取り組んでいる。</p> 
8	<p>学校は、子どもの生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。</p> 
9	<p>子どものことについて、気軽に先生に相談できる。</p> 

No.6『子どもは、学校に友だちがいると言っている。』

ここ3年間、肯定的評価(A+B)が90%以上の評価をいただきました。日々の学校・学級生活の中で、友人・仲間関係のことで悩んだり、トラブルを起こしたりすることはありますが、総じて子どもたちは「学校に友だちがいる」と思い、学校・学級での集団生活を過ごしていることに安堵します。しかし、今後も、子どもたちの様子を見守り、人間関係の悩みや困りごとの相談に耳を傾け、質の高い集団づくりに努めていきたいと思ひます。

No.7『学校は、いじめや暴力・体罰のない学校づくりに取り組んでいる。』

ここ3年間、肯定的評価(A+B)が90%以上の評価をいただきました。しかし、集団生活ではいじめなどが起きることを肝に念じながら、子どもたちを注意深くみて、一人ひとりの思いを聞き、不安のないように対応していきたいと考えます。学校全体ではいじめの未然防止の取組みを進め、毎学期「ここにアンケート」を実施し、いじめ等の実態把握に努め、個別指導・ケース会議を開く等、個々の問題対応に努めていきたいと思ひます。

No.8『学校は、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。』

ここ3年間、肯定的評価(A+B)が90%以上の評価をいただきました。本校は、少人数で一人ひとりの気持ちが尊重され個別対応を行える面があります。子どもたちの個性は様々で、一人ひとりに合う指導や支援の実施に教職員は努め、それぞれの違いを認め合おうとする子どもたちを育てています。今後とも、学習規律や社会のルールを守ることにについては、注意喚起するにとどまらず、その意義を子どもたちに丁寧に説明しながら、子どもたちに向き合い、その定着に努めていきたいと思ひます。

No.9『子どものことについて、気軽に先生に相談できる。』

ここ3年間、肯定的評価(A+B)が90%以上の評価をいただきました。本校は、全教職員が全児童を見守ることができ、子どもたちも多く教職員に話しかけやすい雰囲気をもつ小規模校の良さがあります。今後も子どもたちの思いに耳を傾け、よく聞き、子どもたちに寄り添うこと、子どもの本音や願いを理解することに、全教職員は真摯に向き合うようこれからも努めていきます。またSSW(スクールソーシャルワーカー)やSC(スクールカウンセラー)等の制度もありますので、必要に応じてご相談くだされば、教育相談の機会をもちたいと思ひます。

今後も人権教育を柱にすえて、楽しく学ぶ授業、体験的な学習等を通して子ども自らが主体的に学ぶ授業づくりとお互いを認め合い尊重し合える学級・学習集団づくりに取り組んでいきたいと思ひます。

(4) 教育環境に関すること



項目	内容	R1	R2	R3
10	通知表や個人懇談で、学習や学校生活の様子がわかる。	55 45 00	76 21 03	72 25 03
11	学校は、保護者や地域の人々が授業を参観する機会を十分設けている。	82 18 00	67 28 05	64 28 06 02
12	吉小緊急メールは、役に立っている。	70 25 05	72 24 02	75 20 03 02
13	地域の方や(学生)サポーターの協力を得ながら学校教育を進めていることに共感できる。	79 19 02	76 22 02	77 21 02

No.10『通知表や個人懇談で、学習や学校生活の様子がわかる。』

ここ3年間、肯定的評価(A+B)が90%以上の評価をいただきました。昨年度から通知表表記が、豊能町全小中学校でシステム管理による入力・出力表記・ファイル管理形式に変更され、また新学習指導要領に応じた評価になっております。今後とも懇談会など個別でお知らせいたすことや、学級通信などで学級の様子をお知らせするなど、学習や学校生活の様子がわかるように努めていきたいと思ひます。

No.11『学校は、保護者や地域の人々が授業を参観する機会を充分設けている』

この3年間、肯定的評価(A+B)が90%以上の評価をいただきました。しかし、「全くあてはまらない」と感じられた方がおられ、コロナ感染症対策のため、従来通りの授業参観ではなかったことに対するご意見を表されたのではなかつたと思ひます。しかし、できる限りの感染症対策を行って、授業参観等の場を行って参りました。この後コロナ感染症拡大が収束すれば、土曜学校公開や授業参観を例年通り行ったり、学校行事やゲスト授業・児童会行事等も公開したり、保護者・地域の方に参観していただく機会を設けることができることを願っております。

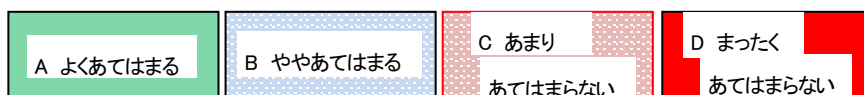
No.12『吉小緊急メールは、役に立っている。』

ここ3年間、肯定的評価(A+B)が90%以上の評価をいただきました。吉小メールは、緊急メールと連絡メールの、大きく2種類の連絡をしております。緊急メールでは、天候の急変や感染症などによる緊急下校等の緊急情報を、連絡メールでは連絡情報をお知らせして参りました。今後も分かりやすくお伝えできるよう努めていきたいと思ひます。合わせて関係諸機関との連携や危機意識の向上・緊急対応体制、一斉下校の積み重ね等、安全面の充実を図っていきたく思ひます。

ただ、No.11・12の項目で「全くあてはまらない」「あてはまらない」と思われた方がおられ、上記のように実施して参りましたが、どのような点でそう思われるのかお聞かせいただきながら今後にかしたいと思ひます。

No.13 『地域の方や学生サポーターの協力を得ながら学校教育を進めていることに共感できる』

ここ3年間、肯定的評価(A+B)が90%以上の評価をいただきました。地域の方・サポーターの方には、登下校見守りや授業支援など、様々な場面でご支援いただいております。コロナ感染症対策のため、吉小サポーターのご支援をいただく場面がかなり制約されてきました。それでも、このように高い評価をいただいたことは、地域の方のご支援を保護者の方が十二分に理解されていることだと思います。ただ、吉小サポーターの方たちの高齢化が進み、引退されてきていることや、学生サポーター登録が0名であることなど、サポーター制度の在り方については継続検討課題です。今後とも、保護者・地域の皆様が、本校の教育活動をご支援していただけるように考えていきたいと思っております。



(5) 家庭に関すること

項目	R1	R2	R3
14 家族で社会的なルールを教えている。	60 36	60 38 2	61 34 3
15 学校のことについて、子どもと話す時間を持っている。	59 36 5	66 28 6	59 36 3
16 家族は、毎日あいさつを交わしている。	78 18	83 13 4	88 7 3
17 毎日、朝ご飯を用意している。	89 9 2	94 6 0	93 3
18 子どもが忘れ物をしないように意識している。	46 41 11 2	57 38 5 0	49 43 6
19 学校・学級通信、学校ホームページ、連絡文書等はきちんと読んでいる。	40 49 11	54 39 4	44 43 11

家庭に関わるほとんどの項目で、肯定的評価(A+B)が90%以上であり、ご家庭の教育力の高さや学校教育へのご支援の高さがうかがえます。ご家庭では、「子どもと話す時間をもっている」「あいさつを交わしている」「朝ご飯を用意している」など、基本的な生活習慣が身につくように努めておられ、ご家庭での子どもとの関わりがしっかりできていることがよくわかる結果といえます。本校のご家庭での教育力の高さは素晴らしく、本校の教育力の高さが保護者の方のご理解とご協力のもとにあることと感謝いたします。

No.19『学校・学級通信、学校ホームページ、連絡文書等はきちんと読んでいる』と『子どもが忘れ物をしないように意識している』の質問項目ですが、学校としては、本校の保護者の方は「児童の忘れ物への注意」はかなりされていると思い、「学校から便りはよくお読みいただいている」と常に敬服いたしております。「もう少し努める必要がある」という、謙虚な思いの中で、「あまりあてはまらない」を数名の方が選択されたのではないかと推察いたします。今後とも、学校からの案内にはよく目を通していただき、子どもへ忘れ物がないか声かけを、これまで同様していただきますようお願いいたします。

3. おわりに

保護者の皆様には、本アンケートにご協力いただきありがとうございました。

さて、この結果から、学校運営及び本校の教育活動について、保護者の皆様は一定認めていただき、保護者の皆様に厚い信頼を感じると共に、そのような中だからこそ思い切って学校運営をすすめることができます。学校からのお願い等に対して保護者の皆様は誠実に対応してくださいますし、家庭での子どもとの関わりを大切にされ、教職員との意思疎通にも努められ、協働して共育いただいていることを実感します。

本校は少人数学級集団で、人間関係の固定化や学習・学級集団づくりの課題もあります。子どもたちは教職員に声かけやすく安心できる反面、個別対応に頼ってしまう面もあります。しかし、小学生のうちは、身の回りの大人を信頼し、特に教職員とは近い親しい関係性の中で、信頼感や安心感が育つと考えます。また教職員は「一人ひとりを尊重すること」「子どもの性質や個性はさまざまであり、その子どもに合う指導や支援をすること」を大切にしています。「子どもの存在そのものを丸ごと認め、子どもが表出する感情や言動を受け止め、子どもを理解すること」を柱に据え、少人数学校の利点を生かして、教育活動を進めています。

また、「子どもは何に興味・関心があるか」は個々によって違い、「何に興味・関心を示すのか、どんな場面で心の在り様を表すのか」も一人ひとり違うのだということを受け止めるようにしています。そして「誰にも得意と苦手があるが、苦手なところを減らすよりも得意なところを伸ばすこと」を共通確認して、「子ども自身が主体的に、自ら目的をもって行動すること」をめあてに取り組んでいます。

少人数学級集団の課題については、学年団制を取り入れ、2学年合同での授業や生活指導に努め、複数教職員が、2学年の子どもたちに寄り添い、子どもたちも複数の教職員に相談できる体制をとっています。今後、この体制をとると共に、異年齢・縦割り集団での活動もすすめ、できるだけ固定的な同年齢集団だけの活動にとどめず、学習・学級集団の多様性に取り組んでいきたいと考えます。

今年度はコロナ感染症対策で教育活動が制限される中にも関わらず、保護者・地域の皆様には、児童安全見守りや授業支援などご支援いただき本当にありがとうございました。今後も、学校・家庭・地域が協力して子どもたちを見守り、育んでいきたいと思っております。何卒ご理解ご支援をよろしくお願いいたします。